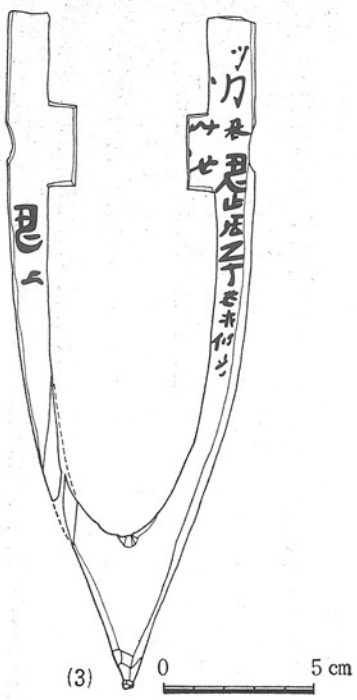

容は理解できない。

右辺第四字、左辺第一字以下の文字はそれぞれ右端、左端が削られている。これは、文字を記した後、二次的に木製品の縁を削り取ったためと考えられる。

木製品自体の用途であるが、長方形の削出し部と半円形の窪みが左右一対ずつあることから推定して、削出し部に物をはさみ、左右の窪みに紐などを巻きつけて固定したのではないかと考えられる。

木簡の時期は、(3)の木簡とともに七世紀後半から八世紀の土器が伴出しており、この時期と考えられる。

9　関係文献

佐賀県教育委員会『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』8（一九九一年）

（渡部俊哉）

佐賀・湯崎東遺跡で
木簡状木製品・墨書土器出土

湯崎東遺跡は、多田遺跡の所在する佐賀県杵島郡白石町の南西部、標高三・四mを測る水田地帯に位置する集落跡で、同町教育委員会が、一九八七年度から八九年度にかけて県営圃場整備事業に伴う調査を実施した。

その結果、古墳～奈良時代を中心とする土坑・井戸・溝の他、弥生後期の二間×一間の高床式倉庫二棟、一間四方の掘立柱建物一棟を検出した。遺物には、多量の須恵器・土師器の他、銅鏡片、緑釉陶器、瓦器、青磁、石鍋片、櫂・鋤・又鍬・木戈・舟型木製品などの木製品がある。

木簡状木製品は、長さ二三八㎜、幅三五㎜、厚さ四㎜で、〇三一型式。墨痕はない。長径二・一m、短径一・六mの楕円形の奈良時代の土坑から、檜扇片と思われる木片とともに出土した。奈良～平安時代の墨書土器には、「木本」「日」「大」「太」「志」「十」などがあり、「大」とヘラ書きした土器もある。

（渡部俊哉）